

アメリカ班

アメリカ班は16名が7月24日から8月2日の10日間、姉妹都市であるサクラメント、その他サンディエゴ、ロサンゼルスなどを訪問しました。



ドイツ班は16名が7月20日から7月29日の10日間、姉妹都市であるフライブルク、その他ハイデルベルク、ベルリンなどを訪問しました。



ドイツ班

派遣事業概要

(公財)松山国際交流協会では、毎年夏休み中に「まつやま中学生海外派遣」を実施しています。

この派遣は、松山市の姉妹・友好都市での交流や体験学習、ホームステイなど、文化や言葉の違う人達との交流を通して、色々な価値観があることを学び、広い視野を持って物事を見ることが出来る国際性豊かな人材の育成を目的としています。

昨年度に「中学生チャレンジプロジェクト」(*1)へ登録し、1年を通じて国際交流活動に参加した中学生を対象に、派遣生の募集を行いました。その中から選考された32名が、3回の事前研修の後、アメリカ班、ドイツ班に分かれ派遣されました。この派遣を通して学んだこと、心に残ったことなどを本レポートにまとめました。

*1 「中学生チャレンジプロジェクト」については本誌10ページをご覧ください。
※2017年度より韓国班は派遣を休止しています。

派遣事業全体スケジュール

6月16日(日)	事前研修
6月30日(日)	事前研修
7月7日(日)	事前研修
7月20日(土)	ドイツ班 松山空港発
7月24日(水)	アメリカ班 松山空港発
7月29日(月)	ドイツ班 松山空港着
8月2日(金)	アメリカ班 松山空港着
8月上旬	事後研修
8月17日(土)	報告会

事前研修



派遣先の文化やライフスタイルを理解するとともに、自分たちの国や街のことを再確認し、ホームステイ先でもきちんと紹介できるよう、出発までの間、3回にわたり事前研修を行いました。

報告会



帰国後、それぞれの班が現地で学んだ知識や体験等を発表する「報告会」を行いました。

アメリカ班

アメリカ班

イカおならら思出

松山市立東中学校 宇都宮 結乃



庭の前に広がる湖

出発の日の朝は緊張と不安、最悪の体調でマイナスからのスタートでした。親元を離れて、友達と旅路を共にし、はるばる来たアメリカの地に降り立つ頃には、気持ちも気候もカラッとしていました。

10日間の研修で一番心に残っているのはホームステイです。ホストファミリーの年の近い子供達と一緒過ごした、庭の目の前にある湖のボートも、リビングで折った折り鶴も、弾いてくれたピアノの音も、そこに広がる何気ない風景すべてが貴重な経験でした。まだまだ上手く伝えられなかった英語

サクラメント滞在は、プログラムの手配・ホストファミリー探しから、派遣中の同行・通訳まで、現地の松山サクラメント姉妹都市協会の方々がお世話をしてくださっています。

アメリカ班日程		
第1日	7月24日(水)	松山発 サンフランシスコ着後、 サクラメントへ移動
第2日	7月25日(木)	サクラメント市内研修 市庁舎、州議事堂、 オールドタウン見学 ウェルカムパーティー
第3日	7月26日(金)	コロマ金鉱発掘ツアー、 サター晝見学 ホームステイ開始
第4日	7月27日(土)	ホームステイ
第5日	7月28日(日)	ホームステイ
第6日	7月29日(月)	サンディエゴ市内研修 サンディエゴ動物園 USS ミッドウェイ博物館
第7日	7月30日(火)	ロサンゼルス市内研修 ハリウッド、UCLAキャンパスツアー グリフィス天文台
第8日	7月31日(水)	ロサンゼルス市内研修 カリフォルニアサイエンスセンター 全米日系人博物館
第9日	8月1日(木)	ロサンゼルス発
第10日	8月2日(金)	松山着

イ初のアメリカで学んだこと

愛媛大学教育学部附属中学校 大堀 夏波

を勉強して、また会いに行きたいなと思いました。

日本に帰ってから的事。アメリカ派遣を経験している母と兄の、それぞれの写真と見比べました。そこに写る、ゴールデンゲートブリッジ、同じ角度で見上げた州議事堂の天井、大きな鉄道博物館。私の見て来たアメリカの景色は、変わらずそこにありました。人は代わっても、昔から変わらず守ってきたものを大切にしながら、これからも良い交流をしたいと思いました。

終わりに、第1回の研修日から先生、スタッフの方々、旅行会社の人など、大変お世話になりました。本当にありがとうございます。

初のアメリカ。初の海外。今回の派遣で私はたくさんの人に出会い、沢山の初体験を体験することができました。そして私がアメリカの地に立つて海外ということを感じたのは、「ドルを支払った時」「信号機や運転席の違いをこの目で実際に見た時」でした。人種の違いで海外ということとあまり感じなかったのは、日本でも海外の方と交流する機会が増えていて、自分の中でもあまり珍しいものではなくてきているからだろうか、と少し感じた瞬間でもありました。だからこそ、せっかくアメリカまで来たからには日本では学べないことを絶対に学んで帰ろうという強い気持ちになりました。

そして、私が一番の学びになったと思う



ホストファミリーと巨大ピザ

研修は、ホームステイです。私はホームステイでは、自分の最大限の英語の力で、できるだけ自分の思ったことを伝えるようにしました。おもしろい、楽しかったなど、小さなことでも自分の思ったことを伝えることで、会話が広がり、さらに充実した時間を過ごすことができたと思います。また、自分がよくしているような兄弟げんかを、ホストファミリーもして面白かったです。

これらのように私は今回の派遣で、いろんな人と出会い、コミュニケーションをとることの楽しさを知ることができました。これからは、今回学んだことを次に活かしてつなげていきたい、そして今回の出会いも大切にしたいと思えます。最後になりましたが、今まで私たちを支えてくださった皆さん、本当にありがとうございます。

イアメリカを感じる

愛光中学校 岡山 千華

私が初めてアメリカを感じられたと思うのは、「WELCOME PARTY」のことです。ホストファミリーの方々が会場に入った瞬間、空気が変わったように感じました。自分を型にはめる必要なんてない、おおらかに自由に生きろよという空気です。その後も、アメリカの人々の積極性や、拙い私達の英語を分かっていてくれる優しさに触れ、「これがアメリカか」としみじみと思いました。

また、アメリカの人は人間味があるなと感じました。アメリカでは、店に入るだけで笑顔で「Hello! How are you?」と声をかけてくれます。つられて私達も「Hello!」と返してしまふほどです。物を買う時、店を出る時も「Thank you! Have a nice day!」と送り出してくれます。外に出て人と話すことで、こんなにも心が軽くなったのは初めての体験でした。

しかし、私はアメリカ人全員が陽気なわけではないということも学びました。アメリカ人でもシャイな人はいます。その為、住んでいる国名やイメーজ等で先入観を持たないことが国際化を進めていく上で必要だと思いました。

アメリカに行く前に掲げた目標「自分が今後どのように社会に貢献していくかを決めるヒントを掴む」は達成できたと思います。相手を知ろうとしたり、自分を伝えたりしようとする積極的な態度によって人



アメリカを感じる!

乾いた風が私の顔を覆った時から、研修は始まりました。サンフランシスコ空港からの移動は、専用バスが用意されており、見学先には日本語通訳も付いて下さったので、最初は安心していました。

しかし研修二日目、大学寮でのシーツ交換の時、トラブルが起こってしまったのです。使用済みのシーツ二枚と枕カバー一枚を渡せば、新しいものと交換してくれるシステムのはずが、返ってきたのは枕カバー三枚だったのです。慌ててそのカウンターに戻ったら、スタッフが交代されていて、英語で「枕カバーのことを返答。精一杯説明しましたが、なかなか伝わりません。しかし、シーツがないと寝られないため、言葉を変えながら説明し続けました。五分くらい話した時、「Oh! Yes!」とようやく理解してもらえました。その時、私は「諦めないことの大切さ」を学びました。

この経験があったので、その後のホームステイ先でも自分の意思をはっきり伝えるこ

Express myself

松山市立東中学校 小川 花凛



ホストファミリーとメキシカンフード

との繋がりは広がっていくことを実感したからです。日本に帰った今でもホストファミリーや大学の学生さんと連絡を取り合っています。私は将来人と関わる仕事に就き、今後も成長し続けたいと思います。

最後に、この研修に関わってくださった全ての方に感謝します。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

最高の経験

愛媛大学教育学部附属中学校 片山 悠太

僕は、今回の海外派遣が初めての海外渡航でした。アメリカまでの約九時間のフライトは緊張で睡もできず、不安で一杯でした。でも、それはサンフランシスコの空港に到着した瞬間に変わりました。気温は高く空気が乾燥し、目に映る全てのものが英語で書かれている景色を見て、「僕は、今アメリカにいる」という実感と興奮が湧きあがってきました。

僕は、この海外派遣で学んだことが大きく二つあります。

一つ目は、多くの発見があったことです。例えば、ホストファミリーが年齢に関係なく名前呼び合っていたこと、日本より笑顔やスキンシップが多いことなど、日本とアメリカで文化や生活環境が随分異なることを実感しました。

二つ目は、自分を高めることができたことです。もちろんこの短期間で英語力が高まっ



ホストファミリーと



シリコンバレー、Intel社にて

飛行機に揺られ約9時間、北アメリカ大陸と太平洋が窓から見えた時、「ああ、いよいよアメリカだ。英語だけのホームステイが始まる。」と緊張が高まってきました。そんな中で始まったホームステイ。僕はアメリカに行く前、ホストファミリーと何回かメールをやり取りしていました。僕はITにとっても興味があったので、シリコンバレーの

済美平成中等教育学校 栗原 鴻

イホストファミリーの思い出

最後のになりましたが、今回の研修がより豊かになるように、ご尽力下さったまつやま国際交流センターの方々、事前研修に携わって下さった方々、海外派遣を引率して下さいました先生方、そして海外派遣に送り出された家族に感謝します。貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

博物館に行きたいという希望を伝えていました。ホストファミリーの皆さんはそんな僕の気持ちを覚えて下さり、お忙しい中サクラメントから約180kmも離れたシリコンバレーまで連れて行ってくださいました。僕はとても感激し、感謝の気持ちでいっぱいになりました。



びっくりクラムチャウダー!

松山市立久米中学校 島崎 野乃

イクラムチャウダー

二日目は湖に連れていかけてもらいました。そこで泳ぐ前に、松山にホームステイに来たことがある中野君の友達22人と野外活動で楽しい時を過ごしました。湖では救命胴衣を着けて「logab君たちと沖まで泳いでしまった為、戻るときに苦労してしまったこと」も忘れられない思い出の一つです。そうして、あつという間に時間が過ぎ、気がつけばお別れの日。たった2日間でも自分の人生を変えるくらい大きな変化があり、ホストファミリーの皆さんとかけがえのない絆ができたと思います。また、先生やスタッフの方々、その他大勢の方々の御協力により、安心かつ安全な旅をすることができました。すべての皆様に感謝いたします。



レストランでの食事後家族のみんな

初めての海外、初めてのホームステイ、初めての……。僕にとっての今回の海外派遣は、人生史上「初めて」の連続でした。出発前にあった少しの緊張や不安は、いざ出発すると吹き飛んでしまいました。広がる美しい街並み、何もかもビッグサイズの食べ物

愛媛県立松山西中等教育学校 田中 快青

イ自分を育ててくれたアメリカ

短期間でしたが、アメリカに行ってきた皆さんの貴重な経験ができました。簡単な英語でも外国人と話すのと、日本人と話すのでは全然違うと思います。この度、アメリカ、カリフォルニアに行かせていただいたおかげで、発音も上達し、前の自分よりも精神的に成長したと思います。この経験をこれからも忘れずに、生かしていこうと思います。

この研修での思い出はたくさんあります。二日目は、大学寮です。大学は日本にないくらい大きくて、様々な国の人たちが通っていました。食堂では、好きなものをつとて食べるバイキング形式でした。ポテトやサラダなど、アメリカならではの食べ物がたくさんあり



リンジと食事

松山市立城西中学校 田中 夏穂

イ私のセカンドファミリー

僕は今、今回の海外派遣で、引率の先生方、添乗員さん、ホストファミリーなど、たくさんの人にお世話になりました。改めて、多くの人を支えられていると実感しました。これからは、感謝を忘れず、将来の夢に向かって進んでいきたいです。

海外渡航が初めての自分にとっては、頭の中にあつた概念という物が次々と壊されていきました。まず、日本はアメリカの次に並びような国だと勝手に思っていました。実際に違っていました。日本では大半の人が大統領の名前やアメリカの州の名前を3、4個知っているのに、アメリカでは日本の首相の名前は知らないし、知っている都市は東京だけ、ということが当たり前な世界でした。また、松山市と姉妹都市関係にあるサクラメント市を訪れました。サクラメン

常識を覆す2日間
サンフランシスコの広大な土地に降り立つてから僕のアメリカでの生活が始まりました。海外渡航が初めての自分にとっては、頭の中にあつた概念という物が次々と壊されていきました。まず、日本はアメリカの次に並びような国だと勝手に思っていました。実際に違っていました。日本では大半の人が大統領の名前やアメリカの州の名前を3、4個知っているのに、アメリカでは日本の首相の名前は知らないし、知っている都市は東京だけ、ということが当たり前な世界でした。また、松山市と姉妹都市関係にあるサクラメント市を訪れました。サクラメン

松山市立久谷中学校 中山 佳都

また、ホストファミリーは普段行っているスーパー、日本にもあるスターバックスなども連れて行ってくれました。また、リンジやリンジの友達と深夜遅くまで遊園地で遊んだりして、アメリカの若い子の日常の生活の様子も見ることができました。とても充実した3日間でした。土地は違ってたけど、日本の家族という感じで落ち着けて、新しい家族ができたかなと思いました。今回研修で、自分の語学力の未熟さを感じたのと同時に、相手に寄り添う気持ちがあれば、言葉が通じなくても気持ちは伝わると思えました。日本に帰ったら、家族や友達にもっと優しくなろうと思えました。いろいろな人に感謝の旅でした。

私は今回の研修に参加して感じたことは、「アメリカ人の心の広さ」です。なぜなら、ホームステイ先で失敗しても「OK! OK! No problem!」等、温かく寛大な言葉をかけてくれたり、言葉が通じなくても分かりやすく何度も伝わるよう表現してくれたりしたからです。また、アメリカ人の心の広さは、全ての大きさにも表れているように感じました。サンディエゴでは「USSミッドウェイ博物館」の見学がとても心に残っています。実際に見る空母はとても迫力あり、沢山のミサイル

アメリカにア
感じたこと
松山市立北中学校 藤田 琉生

トは人口や面積などは松山市とほぼ同じはずなのに、夜中や早朝に走っても車が何台も走っていたので圧倒されました。他にもカリフォルニア州の州都というだけあって、高層ビルがいくつも立ち並んでいた姿は松山に勝っていました。今回の研修ではカリフォルニア州だけを回りましたが、それだけでも本当に広くて二つの州の中にサンフランシスコやロサンゼルスといった大都市があるため、カリフォルニア州だけでも二つの国をつくれる感じでした。なので、アメリカ合衆国という国名にも十分納得ができました。また、アメリカではお店がどんなに混んでいても、大変そうなお仕事でも店員さんは笑顔で楽しそうに働いていたので見習いたいです。アメリカで10日間もすごせて非常に良かったです。今回感じたことを活かして、世界的な視点から物事を考えたいです。

イ常識を覆す2日間

次は、今回の研修での一番の楽しみであり、最も緊張していたホームステイです。私は英語が得意ではないし、日本語が通じない中で、コミュニケーションをとれるのか、不安ばかりありましたが、ホストファミリーのみんなは温かく、聞き取れないときは、ゆっくり話してくれたり、私の精一杯の英語を理解しようとしてくれました。この写真は、ホストファミリーと一緒に夕食にピザを食べに行ったときのものです。アメリカは、なんでも大きいと聞いてましたが、その通り何もかも大きくて、量も多かったです。普段からたくさん食べる私も、毎回限界まで挑戦しましたが、それでもママには「食べて、食べて」と言われ続けました(笑)



ゴールデンゲートブリッジ

引率の先生方

この経験が
人を大きく伸ばす

団長 松山市立道後中学校
校長 高田 誠



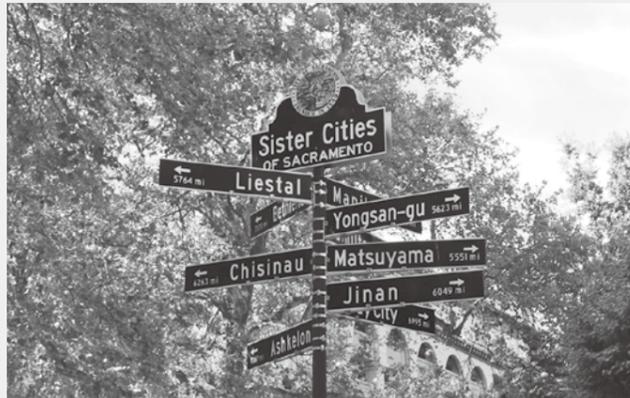
青い空と真っ赤な金門橋を背景に！

私たちアメリカ班は、サクラメント、サンディエゴ、ロサンゼルスでの研修を終え、8月2日夜松山に全員無事に帰着しました。市内の色々な中学校から選ばれた16人の派遣生が、3泊のホームステイを含む10日間の海外派遣という全く未経験のプロジェクトに協働して当たり、個でもチームでも異文化体験をするというミッションを達成したことは、「人としての実力」を大きく伸ばしたと確信しています。現地では、溢れる英語にもがきながらも自らの英語力をフル回転して理解しようとする姿、なんとか相手に伝えようとする姿がありました。特にホームステイ中は、日常あり得ないレベルで相手を尊重し理解しようとしたに違いないのです。その効果か、ロスへ移動後のUCLA見学では、案内係の日本人留学生が驚くほど英会話への積極性を見せました。今後もその意欲を持ち続けて、できればこの仲間から将来、UCLA留学生を出してほしいものです。

最後になりましたが、このような貴重な研修機会を与えていただいたことに対して改めて深く感謝いたします。また、派遣生を直接指導してくれた、高田先生、河野先生、MICHIOさん、添乗員の岡川さん、本当にお世話になりました。

人との出会いに感謝

松山市立久米中学校
教諭 高田 真奈実



姉妹都市はつながってる！

「英語が話せるようになって楽しい。もともと話すようになってみたい。」と、高校の留学先で思っていたのが数十年前。今回、アメリカへ行かせていただき思ったこと、「やっぱり英語が話せるって楽しい。通じたらうれしい。」でした。この想いを生徒に伝えていきたいと思う研修になりました。

アメリカ班の派遣生たちは、事前研修から素直で、お行儀のいい子たちでした。それは、もともと積極的にいけばいいのに、と思う場面があるくらい。しかし、アメリカに行つてからの彼らは、ひと味違つていました。本場の空気に触れ、目がキラキラ。失敗を恐れず英語で積極的にコミュニケーションをとる姿に、感動しました。子どもは無数の可能性をもっているということ、を改めて感じる事ができました。

また、この研修で出会った人たちからは多くのことを学びました。特に、松山サクラメント姉妹都市協会の方々からの心づくしのおもてなしには、感謝しかありません。私自身、多くの経験をさせていただき、素晴らしい10日間を過ごすことができました。この研修に関わってくれた方々に感謝しています。これから派遣生のみならずがこの経験を生かし、さらに活躍することを期待しています。

日系アメリカ人の

貢献

愛媛大学教育学部附属中学校
教諭 河野 圭美

今回の海外研修の目的の一つに「国際化への貢献」がありました。最終日、ロサンゼルス「日系博物館を訪れた時、アメリカに移住した日系人についての話を聞きました。日系人とは祖先が日本人でアメリカの市民権を持つ人々のことです。かつて、彼らの境遇は人種差別などにより悲惨だったそうです。特に、第二次世界大戦中、彼らはアメリカ国民でありながら、全財産を没収され強制収容所に入れられました。」

ガイドの方が最後に話された次の言葉が強く印象に残りました。

「第二次世界大戦に負け、原爆などによって壊滅的な被害を受けた日本が、20年も経たないうちに、オリンピックを開催できた一つの大きな要因は、日系人の存在です。彼らは強制収容所に入れられても暴動つ起さず、生活規則をきちんと守りました。そしてアメリカ国民に日本人の素晴らしいさを粘り強く話しました。今、皆さんは日本という平和で豊かな国で生き、素晴らしい教育を受けて素晴らしい未来を持つことができている。そのことも昔、日系人がアメリカ国民に示した生活態度や人間性に対するところが大きいのです。」

今まで「国際化」と言えば、世界に出てバリバリ活動するイメージを持っていました。しかし、今回のアメリカ訪問により、「国際化への貢献」には、日本人としての誇りやアイデンティティーを世界の人に示し、英語をツールにして、多くの人と心を通わせることも重要だと感じました。



UCLA (カリフォルニア大学ロサンゼルス校)

派遣を終えて



アメリカ班

派遣を通して何を得ましたか？

- ◆ コミュニケーション能力、全般的な英語力(リスニング、スピーキング、発音、単語)
- ◆ 初対面の英語圏の人と気軽に話せる積極性と行動力 ◆ 異文化理解と日本の良さの再認識
- ◆ 普段と違った環境の中で仲間と協力して生き抜く精神力と協調性の必要性、責任感
- ◆ たくさんの出会い(先生・派遣生など)と貴重な体験
- ◆ 研修プログラム内外(ホームステイ中の訪問)で得た知識

派遣の前と後でどこがどんなに変わりましたか？

- ◆ 世間の見方が変わった。視野を広げて物事を捉えるようになった。
- ◆ 画一的になりがちだった自分の生き方にアレンジを加え人生を変えたい。
- ◆ 自分に自信ができた。 ◆ 国際的な仕事に興味を持った。
- ◆ 少し明るい印象になったと言われた。
- ◆ 自分の価値観やアメリカに関するニュースの見方が変わった。

来年派遣される後輩に一言伝えたいことは？

- ◆ 最初は不安でも、楽しく夢のような時間の幸せが待っている、自信を持って臨んで！
- ◆ 中学生の時にアメリカに行くのはとても貴重で有意義なことなので楽しんできて！
- ◆ たくさんの出会いと経験をすることができ、最高の体験になる。後悔は無い！
- ◆ アメリカは日本のようにしほりに厳しくなく、なんでも自由、自分らしさを発揮して！
- ◆ アメリカ人は想像以上に気さくでフレンドリーな人が多いので自分の気持ちをしっかりと伝えてみると良い
- ◆ 人とコミュニケーションをとることが大切です、Don't be shy!
- ◆ 日本と違う文化を持つアメリカの異文化に触れ、理解をするという意気込みで派遣に臨むと良い
- ◆ 人生において「ため」になることが多いから、よく学んでくると良い！
- ◆ 英語が話せないことやコミュニケーションをとることが苦手でも絶対に楽しめる！



Look アメリカで印象に残ったことは？

1位

食べ物

(量の多さと大きさ)



2位

トイレ

(広さとドアの下の空き)



3位

ビッグスマイル

(誰もが笑顔でフレンドリー)



10年後の自分への カプセルメッセージ



- あれからまたアメリカに行った？ 派遣の時と何か変わった？
- 15歳の時にアメリカに行った経験をしっかり活用して頑張っていますか？
- Don't forget the memories.
- ホストファミリーに連絡をしていますか？
- 異文化をもっと学び今の人生に役立っていますか？
- 世界は広いよ、たくさんの国に行きましたか？
- あれからもっと英語を勉強して国際的な仕事についていますか？

ドイツ班

フライブルク市



もう一度行きたい
フライブルク

松山市立久米中学校 池田 理子



Neleと一緒に

フライブルク滞在は、行政による招待ですが、フライブルク市在住の大門学さん(松山市出身)が松山市の協力員として、プログラム手配・派遣中の円滑な進行のため通訳などの協力をしてくださっています。

ドイツ班日程

第1日	7月20日(土)	松山発 フランクフルト着後、 フライブルクへ移動
第2日	7月21日(日)	ホストファミリーと過ごす
第3日	7月22日(月)	フライブルク旧市街視察 フライブルク大学視察 エコステーションで環境学習
第4日	7月23日(火)	ゲーテ校訪問 モザイクワークショップ
第5日	7月24日(水)	市役所表敬訪問 ドイツ語研修 クイズラリー BBQパーティー
第6日	7月25日(木)	ハイデルベルクへ移動 ゴミ削減の取り組みを視察 フランクフルト空港から ベルリンへ移動
第7日	7月26日(金)	現地学生とベルリン市内見学 東西ドイツの歴史学習
第8日	7月27日(土)	サンクスイ宮殿 ベルリン動物園
第9日	7月28日(日)	フランクフルト発
第10日	7月29日(月)	松山着

は私のつたない英語も理解しようとしてくれて、すぐに打ち解けることが出来ました。私はそんな優しく温かいホストファミリーが大好きになりました。日本を出るときは「絶対にホームシックになるよな」と不安だらけでしたが、ホストファミリーと過ごした5日間は毎日、日本やドイツの話、おいしい食べ物の話を夜遅くまでして、さみしくありませんでした。お別れするとき、必ずまた会おうと約束したので、大人になったら絶対に戻ってまたフライブルクに行きたいと思っています。

100% English Survival

済美平成中等教育学校 今村 暢希

正直に言うと、僕はこの海外派遣でドイツに行くことにあまり乗り気ではありませんでした。飛行機がドイツに近づいて行くにつれて、僕の心の中の不安はどんどん膨らんでいきました。ホストファミリーの家に着いてからもその不安は続いていて、それに僕の心は押しつぶされそうになっていました。それでも僕は全く話すことができず、何をしたらいいのかわかりませんでした。でも、ホストファミリーはそんな僕の様子を見ても嫌な顔一つせずに、インターネットなどでドイツ語や英語を日本語に



ホストファミリーとティティゼーで

訳してくれたり、僕の拙い英語を一生懸命聞き取ろうと努力してくれたり、とても親切に接してくれました。そしてやっとインターネットの翻訳機能ナシでも、コミュニケーションがとれるようになってきたと思っただけで、ホストファミリーとお別れの時が来てしまいました。その後首都のベルリンに移動してからは、あっという間に最終日が訪れました。

この海外派遣を振り返ってみると、最初は全く知らない所に10日間もいるのかという気持ちでしたが、最後はもう一度来たいという気持ちになるくらいドイツやフライブルク、ホストファミリーの事が好きになりました。今回の海外派遣でお世話になった引率の先生方、向井さん、添乗員さん、現地のガイドの人達には感謝してもしきれません。本当にありがとうございました。

Danke フライブルク!

松山市立勝山中学校 江戸 萌乃果

長かったフライトを終え、あこがれの地ドイツにいた時の感動と、10日間トラバールな過ごし方という不安は、今でもはつきりと覚えています。

ドイツで10日間過ごしてみても、特に心に残っている事はホームステイです。初めは張り切っって自信に満ち、たくさんの人に話しかけようというやる気や、初めての海外にわくわくする気持ちでいっぱいでした。しかし実際にホストファミリーと対面すると、バスの中で練習したドイツ語の挨拶も、いつもの笑顔もうまく出せませんでした。

一日目、あまり自分から積極的に話しかけられなかった私は、知っている単語や身振り手振りを使ってホストファミリーと楽しそうに話す友達を見て、「このままではいけない。」という気持ちが芽生えたのを覚えています。それからあまり恥ずかしがらずに、紙に絵をかいたり、十分ではない英語を駆使したりしてコミュニケーションを図る努力をしました。このおかげで、徐々にホストファミリーとの距離が近づいたと思います。

次に思い出に残っているのは、ベルリンです。テレビや教科書などの写真で見かけたことのないシボルと叫ぶべきベルリンの壁。この壁を実際に目にした時、教科書では知ることのできない、たくさんドイツ人の祖国を思う熱い情熱を感じました。私は、何となく過剰な感謝の気持ちを日本に生活環境に、改めて感謝しなく



アレクサンドラとの週末

ではいけないと思えました。振り返ってみると、長かったようで短かったドイツでの10日間。このような機会を与えてくださった私のふるさと、松山市の関係者の方々、引率してくださった先生方、こころよく送り出してくれた部活動の仲間たち、そして何より両親には深く感謝しています。今回の経験を今後の私の人生に活かして、語り継いでいく責任を果たしていきたいと思えます。

かけがえのない経験

愛光中学校

大野 晃史



フランス コルマルで

フランクフルト空港に到着し飛行機から出ると、そこにはさまざまなお人種の人々がいて本当にドイツに来たんだと実感しました。一番思い出に残っているのは、ホストファミリーのArdieの家族と自分だけで過ごした二日目です。はじめはとても緊張していた、聞かれた質問にYesかNoでしか答えられませんでした。Ardieがとてもやさしくしてくれて緊張がほぐれました。車で1時間ほど走ると、フランスのColmarというとてもきれいな町につきました。Colmarは、絵本に出てくるようなおしゃれな街でした。僕が驚いたのは、車で1時間程度走るだけで国外に行けて、パスポートを見せなくてもいいということです。ここでは一緒に買い物したり、水路で船に乗ったりしました。その他にも、ホームステイ中にホストファミリーは、僕のために寿司を作ってくれました。六日目にホストファミ

リーと別れるときにはとても寂しかったです。今回の派遣で僕が思ったことは、言語の大切さです。Colmarでは当然日本語は通じず、英語も通じなかったため悔しい思いをしました。しかしArdieはフランス語を含めた5か国語を話せるそうです。そういう姿を見て僕も英語だけでなくほかの言語の勉強もしてみようと思いました。またドイツ、フライブルクに戻ってきたと思えるような素晴らしい派遣だったと思います。

最高の100%!

愛媛大学教育学部附属中学校 岡田 愛生

環境先進都市フライブルクにホームステイして、家庭で行われている環境への取り組みを実際に体験することで、多くのことを学ぶことが出来ました。フライブルクの人々の環境への取り組みは、日常生活の中で毎日続けられる、誰にでも簡単に取組める仕組みになっています。特に驚かされたのは、ゴミを減らすには、ゴミになるものは作らないという考えです。洗って何度も使うことが難しい缶飲料は、販売されていません。ポリ袋も、日本のようにマイバックが選べるのではなく、それ自体がありません。また、ペットボトルや瓶を返すと返金されるようになっていて、プラスチックやガラスのリサイクルやリユースを促進しています。ペットボトルや瓶は、洗って何度も使えます。街



巨大ゴミ箱

にはゴミ箱がたくさん、いろんな場所に設置されていて、ポイ捨てがされないように、都市全体が環境に配慮した生活を送れる仕組みになっています。住宅も自然と調和した居住地の開発が行われています。私のホームステイ先でも、庭に虫が繁殖できるような自然を残していました。フライブルクでは農薬を使わない有機農業も盛んに行われていて、自然を汚さず、自然と共存できる社会を作ろうとしていることに感心しました。

My favorite city

松山市立久米中学校 小野下 未来



大好きな家族♡

広大な異国の上空を旅し、ドイツに着陸する飛行機。その瞬間、体の奥から喜びがこみ上げてきました。周りで起きている事がどれも未知のもので、夢の中にいるような感覚でした。

フライブルクにつき、ホストファミリーと対面すると、あんなに練習していたドイツ語が緊張と感動で全く出てきませんでした。初めから家族のようにやさしく接してくれるホストマザーは本当のお母さんのようで、初日から安心して自分を出すことができました。二日目は日中共に過ごし、距離が縮まりました。ネレの友達とも仲良くな

り、ドイツの友達が増えて嬉しかったです。私は書道と茶道を家族に披露しました。みんなとても喜んでくれて、自分自身も日本の素晴らしさを再確認するとともに、思いが伝わる喜びを感じました。また、優しい家族が大好きになりました。別れる前日の夜は女子会をしました。国籍が違うだけで、私達15歳の中学生と変わらないなど感じました。ネレと冗談を言い合ったり、楽しく話したりしたことが一番の思い出です。自分の英語力不足で上手く伝わらず歯がゆい思いもしました。今後さらに英語の勉強を頑張ります。

私は今回の研修で心の意思疎通が大切だと思いました。英語力ももちろんですが、心に国境を持たず、愛を持って接することが一番大切だと思います。今回の家族との出会いは人生を通して大切にしたいです。私にとってフライブルクが友達や家族のいる大好きな街になりました。

ドイツに行っちゃ

愛媛県立松山中等教育学校 川口 津実紀

初めての海外、初めての日本語が通じない生活、初めてのことだらけで凄く不安でしたが、ホストファミリーが温かく迎え入れてくれて凄く嬉しかったです。とても安心して過ごすことができました。ホストファミリーと過ごした一日は、ドイツでの思い出の中でも一番心に残っています。



ホストファミリー達との週末

す。ホストファミリーとボートに乗った湖は凄くきれいなところで、ドイツの自然を感じることができました。夕方には他のホストファミリーと一緒にボウリングへ行き、親交を深めることができました。研修が終わったあと毎日、家に帰る前にアイスを食べに行ったり、買い物に行ったりしたことも良い思い出になっています。リングと話を聞いて、国が違っても考えていることは似ているんだなと思いました。5日もの間、家族のように接してくださったハーネマンファミリーにとっても感謝しています。

日本とドイツ、たくさん違うところがあつて面白かったです。お店や電車にベツトと二階に入ってもよかったです。日本と比べて英語が話せる人が多かったり、公共交通機関が発達していて、車ではなくそちらをみんなが利用しているところが良いなど感じました。また機会があればドイツ以外の国も訪れてみたいと思いました。

史上最高の夏休み

松山市立三津浜中学校 中岡 綾乃

約12時間に渡る長時間のフライトを終え、ドイツに降り立った私は、大きな期待を持って同時に、初めての海外渡航に不安をかかえていました。周りを見渡してみると、全く日本と文化が違うことに驚き、海外に来た喜びがありました。

ドイツで様々なことを経験しましたが、特にホストファミリーとの会話に苦労しました。初めは戸惑いながら返事をするだけでしたが、徐々にファミリーに慣れていき、簡単な話題を提示することができました。どのような状況であっても、コミュニケーションは大事だということが改めて実感できました。

そして、お金の大切さも学ぶことができました。今までの家族旅行は大人がお金を管理していましたが、ひとり旅行となると貴重品は自己管理となります。なので、なくならないように気をつけました。そして、無駄な物はできるだけ買わないようにするなど、お金の使い方にも注意しました。

この夏休みは、様々なことを学び成長することができました。ドイツでの思い出と経験は、私にとっても大切な宝物となりました。これからの生活に今回学んだことを活かしていきます。この派遣事業に関わってくださった皆様、本当にありがとうございました。



ボートに乗ったホストファミリーの後ろ姿

とを活かしていきます。この派遣事業に関わってくださった皆様、本当にありがとうございました。

中学生最後の最高の夏

松山市立東中学校 野本 来未

飛行機から降り、空港を出た瞬間、日本とは全く違う町並みに、ついに憧れていたドイツに自分があることを実感しました。それと同時にこれから始まる5日間のホームステイに対する不安がこみ上げてきました。

ホストファミリーと会うまでは笑顔で頑張つて話そうと思つていましたが、実際に会うととても緊張し、yesやnoばかりを使つてしまいました。緊張する中、ホストファミリーも英語でゆっくり話してくるので、私も頑張って話そうと思ひ、家族のことや学校のこと、松山のことを話しました。ホストファミリーは一生懸命私の話を聞いてくれて、とても嬉しかったです。ドイツの古城に行ったり、買い物をする。ドイツの古城に行ったり、買い物をする。ドイツの古城に行ったり、買い物をする。ドイツの古城に行ったり、買い物をする。

また、ベルリンでも普段の旅行では知ることができないことをガイドの方のおかげで学ぶことができ、貴重な体験となりました。今回の派遣で私は挑戦することの大切

さを学びました。この経験を元に自分の視野を広げ、様々な形でこれからの生活に活かしていきたいです。

最後になりましたが、今回の派遣に関わってくださった方々、引率の先生、一緒にドイツに行った仲間感謝したいと思います。ありがとうございます。



My Freiburg Family

ドイツで学んだこと

愛媛大学教育学部附属中学校 乗松 愛花

約12時間のフライトを終えてヨーロッパに着いたとき、きちんと会話はできるのか、ちゃんと生活できるのかなど様々な不安が頭をよぎりました。しかし、ホストファミリーはとても優しく、たくさん話しかけてくれて、不安は少しずつ減っていき

ました。私はドイツへの派遣で二つのことを学びました。一つ目は環境を守ることの大切さです。ドイツのフライブルクは特に環境に優しい都市だと知つていただけ、行って改めて実感しました。クーラーはほとんどどの建物に設置されておらず、スーパの袋はどれも有料でした。日本もそのよう

な取り組みをする必要があると思ひました。そして、今自分ができる小さなことをひとつずつ行つていきたいです。二つ目は言葉の大切さです。当たり前ですが、ドイツではできませんでした。特に最初は何を話せばいいのか全く分かりま



ホストファミリーとお別れの時

せんでした。しかし、ホストファミリーが優しく話しかけてくれたおかげで少しずつ話せることができるようになりました。こうして、いつもの何気ない言葉を使つたコミュニケーションの大切さを学びました。

初めての海外

松山市立垣生中学校 乗松 祐亮

僕は、数年前から外国の自然や文化に興味をもつようになりました。姉から、「まつやま中学生海外派遣」のことを聞き、是非参加したいと思ひました。プロジェクトに応募し、国際交流活動に参加して、僕の外国への憧れは一層大きくなって

いきました。日本を出発し、長時間の空の旅を経て、フランクフルト空港に着いたときは海外に来たという実感はまだありませんでした。ですが、フライブルクの町並みを目の当たりにした瞬間、「本当にドイツに来たんだ。」と実感しました。

最初の方は上手くコミュニケーションがとれず不安でしたが、辞典を片手に、身振り手振りで、悪戦苦闘しながら思いを伝えました。そうするうちに、少しずつコミュニケーションが取れるようになり、とても嬉しかったです。僕がホームステイした家は、フライブルクから1時間程離れた、ヒンターツアルテンという町にあり、美しい湖や森など自



日本とドイツ、新しい友人たち

然溢れる所で、ジブリ映画で見たようなレトロな町並みもあり、全てが新鮮でした。

ホストファミリーと近くにある湖に行きました。観覧車や飲食店など、テーマパークに似た所でもかなり居ました。湖で貸し出しボートがあったのでボートに乗ってドイツの自然を感じてみました。湖は森に囲まれていて、レトロな機関車が走っていたり、日本には居ない鳥が飛んでいたりと、自然を堪能する事ができました。

僕たちはゲータ校というドイツの学校を訪ねました。日本とは違う所を何点か見つけたので紹介します。まず一つ目は校内に一つもクーラーが無いことです。しかし、窓が二重になっている為、部屋は涼しく保たれていました。また、昼までに気温が25度以上になると午後からの授業がなくなるという事も驚きでした。多くの方々に支えられて、ドイツの自然や文化に触れ、貴重な体験ができたこと、日本とドイツの友人がたくさんできたことは僕の一生の宝物です。今回の派遣で得た宝物を糧に、残りの中学校生活を充実させようと、決意を新たにしました。

出会いから見えたもの

愛媛県立松山西中等教育学校 橋本 真志

僕がこの海外派遣で一番大切にしよう

と思っていたのは、「出会い」です。僕の家では年に数回、ホームステイを希望された学生さんを受け入れています。いつもは受け入れる側ですが、今回は受け入れられる側の立場で、ドイツのホストファミリーにお世話になりました。ホストファミリーはとても優しく親切な人たちでした。いつも僕が喋る時にちゃんと耳を傾けて聞いてくれて、伝わった時には反応を示してくれて、とても嬉しかったです。また、ホストファミリーはともてフレンドリーで、派遣仲間とプールに連れて行ってくれたり、同じステイ先の派遣生と一緒にセグウェイに乗せてくれたりしました。どれもとても楽しく良い経験になりました。本当にホストファミリーの方々には感謝の気持ちでいっぱいです。

またその他にも、ゲータ校やフンボルト大学をはじめ色々な人との出会いがあり、その二つが自分の大切な思い出になりました。僕はこの海外派遣に行くまで、将来の夢が見つかりませんでした。しかしその将来への道が少し見えてきました。これもたくさんさんの素晴らしい出会いや経験があったからだと思います。

次に外国から来られた方のホームステイを受け入れる時には、今まで以上にコミュニケーションを取り、日本や松山のことをより知ってもらい、その人にとって日本での滞在が思い出深いものになるようにしたいです。この出会いで得たものを胸に、これからの日々を過ごしていきたいと思っています。



お世話になったホストペアレンツ

ドイツでの体験をレポート

松山市立城西中学校 福田 涼太



ホストファミリーとの思い出

僕は、飛行機の中で約12時間過ごしました。そして、実感の無いままドイツに着くことになりました。しかし、とても楽しみにしていたドイツへの海外派遣、この12時間は、これからどう過ごすのかと、考えている時でもありました。

ドイツのフライブルク市で楽しかった事は、ホストファミリーと一緒に、山ハイキングに行きました。ハイキングでは、ホストファミリーのお父さんからフライブルク市がどんな街かを聞き、山からフライブルクの街並みを見下ろすことができました。

その後、旧市街地を視察しました。旧市街地には歴史ある景色が広がっていました。また、ドイツでの学生の過ごし方を見ることができました。

7月25日、ホストファミリーとフライブルクにお別れを言い、ハイデルベルクに向かいました。ハイデルベルクでは、プラスチックゴミの削減について、日本以上に努力していました。例えば、スーパーのポリ袋を完全に無くしていました。その後、ベルリンに向かいました。

ベルリンでは、ドイツで象徴的なブランデンブルク門やドイツ連邦議事堂を視察しました。特にベルリンの壁は、東西分断されていた時代の負の遺産として印象に残っています。他にも、サンスピー宮殿やベルリン動物園を見学し、ベルリンでも良い思い出を残せました。

ドイツでの体験は、日本の悪い所、良い所

を改めて考える事の出来るとても良い思い出になりました。

国を越えて繋がる

松山市立椿中学校 福原 優果

初めてフランクフルトの空港に入った時は、「ドイツに来た」という実感はあまりありませんでした。でも、フライブルクに入った途端、私は驚いて目を見開きました。童話に出てきそうなきれいな建物、その間から見える大きな教会。私は「本当にドイツに来たんだ」と感動しました。

ホストファミリーと会って、いきなり一日を共に過ごした私は、母国語である日本語が全く通じない状況にとっても緊張し、日本語シクになってしまいました。でも「Hallo」さんや弟たちと一緒にキーを作ったり、絵を描いたり、マリオパーティーなどのゲームで遊んだりするうちに、言葉が通じなくても楽しく過ごすことができました。楽しい時間はあっという間に過ぎていきます。ホストファミリーとお別れの日、私は「フライブルクから離れたくない」、「Halloさんの家にもうといたい」と思うようになっていました。

私が最初、ドイツに行きたいと思ったのは、「ヘタリア」という世界の国々を擬人化したマンガが好きだったからでした。そうしたらなんと、「Hallo」さんも「ヘタリア」が好きで、「日本のマンガが本場に世界にまで届いているんだ」と、改めて実感し、感動しました。世界の国々は、互いに影響し合っている今日も動いています。私たちがお互いに良く影響



帽子を買ってもらいました！

響し、支え合って生きる世の中をつくっていきなさいと思います。

最高の思い出となったドイツ派遣

松山市立三津浜中学校 三谷 舞



ホストファミリーと別れる直前

ドイツ派遣が決まったものの、自分が派遣されるといふ実感が湧かないまま、あつという間に出国する日となり、松山空港では緊張している状態で先生や家族に見送られました。10時間以上のフライトで疲れが溜まる中、着陸前に上空からフランクフルトの街を見て、日本とは明らかに違う風景だったので、やっとドイツ派遣の実感が湧いてきました。

空港からフライブルクまでバスで移動し、街に着いたらホストファミリーが出迎えてくれました。初めの方は自分からホストファミリーに対して積極的に話しかけよう、あらかじめ準備していた内容を話したので、会話が続いたのですが、二日二日と時間が経つにつれて、話したいことが上手く伝えられず、会話が難しくなってきました。そんな私にホストファミリーが優しく接してくれて、根気強く理解しようとしてくれたので、勇気を出して知っている単語を並べたり、ジェスチャーで伝えたりすることができました。その後もホストファミリーの優しさのおかげで、ホームステイを楽しく過ごすことができました。

この貴重な体験から、コミュニケーションを取るためには、自分の気持ちをしっかりと持って、それを伝えようとする事が大切

ドイツから学んだこと

済美平成中等教育学校 宮崎 諒

出発の日が近づくにつれ、準備をしていく中でワクワクした気持ちと「ちゃんとコミュニケーションが取れるのか」という不安が湧いてきました。しかし、フライブルク市に到着してホストファミリーであるリヒター家のみんなの優しい出迎えに、抱えていた不安はバツとなくなりました。

ホストファミリーには、観光地であるブラックフォレストやティティゼーに連れて行ってもらったり、屋内プールに連れて行ってもらったりしました。湖は今までに見たことのない美しさのどかさがあり、人生のすばらしさを感じる事ができました。また、僕の拙い英語にきちんと耳を傾けてくれて、英語を話すことがもっと好きになりました。

僕は、学校で三線同好会に入っているので、せひ三線の音色を聞いてほしいと思います。ドイツまで三線を持参しました。家やパーティーで演奏すると、みんな喜んでくれ、日本の文化のつを伝えることができ、達成感を感じることができました。

今回の研修旅行の目的は、現地の人とたくさんコミュニケーションをとることでした。ドイツ語はあまり話すことができませんでしたが、僕なりに勉強してきた英語やジェスチャーでコミュニケーションをとれたと思います。伝えたい気持ちや相手を知らりたい気持ちがあれば国際交流は誰でもできることだと思います。ダンケシェーン!!



ティティゼーにて

引率の先生方

フライブルク・ベルリン訪問を終えて

団長 松山市立南第二中学校 校長 齊藤 昭二

「日本とドイツの違いを確かめたい」、「環境先進国ドイツの各種取組を知りたい」、「自分のコミュニケーション能力を高めたい」、「将来教師となり自分が経験したことを生徒に伝えたい」、様々な目標や夢を持った市内16名の中学生と共に10日間の日程でフライブルク・ベルリンを訪問させていただきました。

松山市との姉妹都市フライブルクにおいては、ギムナジウム(中等教育機関)やフライブルク大学視察、市役所表敬訪問、エコステーションでの環境学習等、貴重な経験を通過し、充実した研修を積むことができました。この間、ホストファミリーの皆様、フライブルク市の幹部職員の方々、松山市出身の現地協力員大門様(※桑原中出身、ご自身も中学生期に派遣団の一員としてフライブルクを訪問)をはじめ多くの方から温かく、きめ細かなおもてなしを受け、感動と感謝の5日間を過ごしました。

ベルリンにおいては、サンスーシ宮殿、ベルリン動物園見学、東西ドイツの歴史学習を行いました。

今回の訪問でドイツの人々の「自主性・自立性・自律性・郷土愛」を強く感じました。平和な日本で暮らしている私たちの生活が



サンスーシ宮殿にて

当たり前でないことを再認識させられた10日間となりました。団員16名の将来の活躍を心から祈るとともに、本事業においてお世話いただいた全ての皆様に感謝申し上げます。ありがとうございます。

貴重な体験

松山市立北条北中学校 教諭 平石 由美子



フライブルク大聖堂内部

事前研修を重ねるにつれて、この研修に対する生徒達の想いや期待は大きくなり、たくさんのお話を聞いて、自分自身を成長させたいという意欲も伝わってきました。そんな生徒達を見て、私自身がホームステイした当時のことを思い出し、きっと貴重な体験になるので、様々なことに挑戦して欲しいと願っていました。

フライブルクでのホストファミリーとの最初の対面では、話すことをたくさん準備してきたであろう生徒達は、嬉しさの反面、コミュニケーションをどのように取るべきかとまどんでいるようにも見えました。ホームステイ先で自分の気持ちを伝えることができるのだからかと心配になりました。しかし、次の日の生徒達の表情は笑顔にあふれ、この研修が貴重な体験となることを感じさせてくれるものでした。ドイツの美しい街並みや自然、環境や歴史を大切にしているドイツの人々とふれあうことにより、生徒達は日に日にそれぞれが現地地しか学べないことをたくさん吸収し、自信さえ身に付けているようでした。

研修を終えた生徒の皆さんには、広い視野をもち、今後の日本世界に自分がどのように関わり、何をすべきか考えながら成長して、この派遣事業においてお世話になった皆様方に感謝を申し上げます。

ドイツ・フライブルクへの研修を終えて

愛光中学・高等学校 教諭 大西 規靖

ドイツ・フライブルク、ベルリンの研修では、様々な人と出会い触れ合うなかで、自分たちが生まれ育った国、街を大切に思っていることを強く感じた。ベルリンでは東独出身のガイドさんに案内していただいたが、東独で生まれ25歳で西側に亡命するまで生活しておられた方からの「生の話」は、たいへん興味深かった。日本では格差社会が広がっていると言われて久しく、公教育の機会が均等であるが、課外活動に関しては差が大きく開いている現状がある。共産圏での教育環境がどのようなものだったのかをより深く知ること、日本の教育環境の問題点をもっと見えてくるように思えた。社会システムについてや高齢化社会の問題なども議論したかった。

自分のやりたいことを実現するため、日本に固執することなく、日本から飛び出す選択肢があることを再度実感した。大門さんをはじめ、様々な人と話をしたが、皆さん非常にパワフルで、自分の信念をきちんと持っておられるのを感じた。そのような方々と触れ合うことは、中学生に「自身の未来は自分で選択できること。自分のために努力を重ねることの大切さ」を感じさせたように思った。私自身が中学生のころにこのような海外研修に参加していれば、私の人生はまた違ったものになっていただろうと強く感じた。

今回の研修を通じて得たものを、今後の教育活動に活かしていきたいと考えます。このような機会を与えてくださった関係各所の方々に感謝申し上げます。



ベルリンの壁

派遣を終えて



ドイツ班

派遣を通して何を得ましたか？

- ◆ 自分の英語に自信を持てるようになった ◆ 言葉の大切さを知った
- ◆ 気持ち次第でコミュニケーションがとれることがわかった (文法ができなくてもOK)
- ◆ 違う文化を知り、認め合うことが大切だと知った (日本のよさも知れた)
- ◆ 異国の人と異なる言語で話す難しさを知り、積極的になることの大切さを知った
- ◆ コミュニケーションの楽しさ、大切さがわかった ◆ 人の優しさを知った

派遣の前と後でどこがどんなに変わりましたか？

- ◆ 自分の英語に自信がもてるようになった ◆ 海外に興味をわいた
- ◆ 自分から積極的に行動 (話しかけることが) できるようになった
- ◆ ささいな事は気にならないようになった ◆ いろいろなことに挑戦するようになった
- ◆ 英語を勉強する姿勢が変わった (学校の英語も役に立つことがわかった)
- ◆ 困ったことがあっても親に頼りすぎず、自分の力で解決するようになった
- ◆ いろいろな人と会話する楽しさをより強く感じるようになった ◆ 金銭感覚が身についた
- ◆ 自然や環境を意識するようになった ◆ ドイツ人に対するイメージが変わった
- ◆ 日本の生活をドイツの生活と対比して考えることが多くなった

来年派遣される後輩に一言伝えらしたら？

- ◆ 英語に自信がなくても大丈夫 ◆ 積極的に話しかけるべき
- ◆ ドイツの人は優しいのでしっかり話をきいてくれるし、助けてくれます
- ◆ チャレンジし続けることが大切。自分の力になります ◆ 世界観がかわります
- ◆ 不安になったり緊張せず、とにかく楽しんで ◆ 人を大切にしよう
- ◆ 写真はたくさん撮った方がいいよ ◆ たくさんのことを吸収してきてください
- ◆ 全てが新鮮で夢の中にいるような心地になるよ ◆ ソーセージがとてもおいしいです



Look

ドイツ印象に残ったことは？

1位

夜遅くまで明るい

2位

街並みがきれい



3位

政治思想の対立によるデモが起きたこと

10年後の自分へのカプセルメッセージ



- ドイツでの経験を活かしていますか？
- またドイツへ行きましたか？
- 国際人として頑張っていますか？ (国境を越えて活動してください)
- どこに住んでどんな自分になっていますか？
- ドイツのことを覚えていますか？
- いろいろな国の異なる文化をみつけてください！
- 英語は話せるようになりましたか？

中学生チャレンジプロジェクト とは?

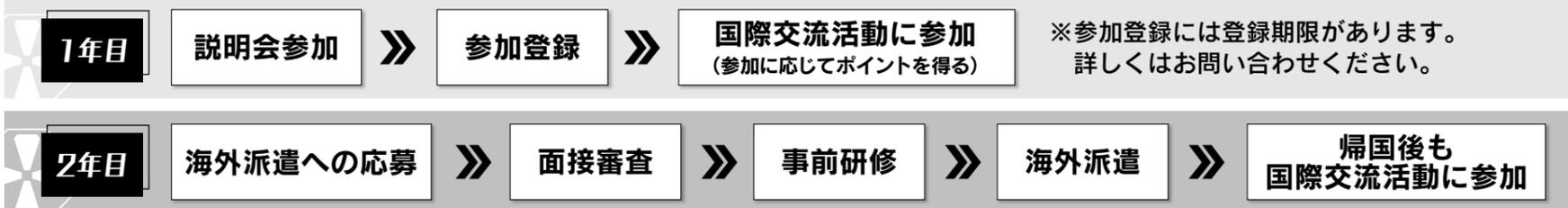
01

プロジェクトに参加できるのは

- 松山市内に住んでいる、中学1年生、2年生
- 広く世界の国々について興味があり、地域での国際交流活動に参加する意欲のある人（派遣応募の資格を得るには、プロジェクトへの参加が必要です）

02

プロジェクトの流れ



03

ポイント対象となる国際交流活動例

4ポイント以上ためると応募可能

チャレンジプロジェクト イベントの紹介

★ JICA (独立行政法人国際協力機構) とコラボしたイベント

～「のぞいてみよう! 国際協力の世界」～

元青年海外協力隊が見てきた世界を紹介することで、国際理解を深めるとともに、今世界で起こっていること、数々の問題に対する知識を深め、自分たちに何ができるか考えてみるきっかけを提供しています。



★ 外国語deおしゃべり ジュニア編

松山在住の外国人ゲストと英語のみを使い、ゲームやクイズなどを通じて交流します。英語の好きな人も苦手な人も英語にはまってしまおうイベント。



★ ジュニア国際交流ボランティア講座

松山市内及び近郊で国際交流ボランティア活動を実施している団体の活動に参加することで、世界との繋がりが活動の必要性を理解し、身近な国際交流ボランティア活動を知るきっかけとなります。



★ 姉妹都市ハッケン!

ドイツ・フライブルク、アメリカ・サクラメント、韓国・平澤出身の方が講師となり国や文化の紹介、ワークショップを実施することで、姉妹都市への理解を深めます。



“まつやま国際交流センター”ってどんなところ?

まつやま国際交流センターは、Matsuyama International Centerの頭文字をとって「MIC(ミック)」の愛称で親しまれています。松山で暮らす人たちが人種・国籍・宗教などにかかわらず、仲良く快適に暮らせるよう、さまざまなサービスを行っています。

①「私も何かしてみたい!」という皆さんへ

★ ボランティア入門講座

国際交流ボランティアの基礎講座と国際交流団体によるガイダンスの2回連続講座です。2回目は国際交流団体の活動紹介後、その日から活動開始も可能です。



★ ボランティアのための語学講座

ボランティア活動に役立つ実践型語学講座(英語、韓国語、中国語)を半年ごとに開講しています。



★ MMF(My Matsuyama Family)

松山在住の留学生にとっての「第2の故郷=松山の家族」をつくらせていただくための制度です。登録者と留学生をMICでマッチング後は、自由に交流できます。



② イベントを通して国際交流を体験してみよう!

★ 地球人まつり(1月)

市民と外国人市民の皆さんとの交流を深めてもらうと、毎年1回開催しています。世界各国の遊びや文化、料理などを体験できます。

★ 国際交流サロン(随時)

市民と外国人市民とが楽しみながら交流できるイベントを随時開催しています。



★ 地域での交流活動のサポート(随時)

地域のイベントに市民と外国人市民がいっしょに参加し、交流します。

③ 外国人市民の皆さんへ

★ 窓口相談サービス

外国人市民の皆さんからの相談対応や、松山で生活をする上で必要な生活情報の提供を行っています。また、毎月1回外国人のための行政書士無料相談も行っています。

★ 外国語としての日本語教室

外国人市民を対象に無料で開講しています。託児サービス(無料)もあります。



★ 自転車の貸し出し

短期滞在の外国の方に対して、無料で自転車の貸し出しを行っています。

国際交流情報が満載の
MICメールニュースを
週に1回配信しています。

配信希望の方は mail@mic.ehime.jp
までメールを送ってください。



お問い合わせ
まつやま国際交流センター(MIC)

〒790-0003 松山市三番町6丁目4-20 コムズ1階

TEL:089-943-2025 FAX:089-931-2041

E-mail: mail@mic.ehime.jp <http://www.mic.ehime.jp/MIC/top.html>

MIC
Facebook
はこちら

